

対応状況報告書

大学名：東京工業大学

評価実施年度：令和3年度

報告年度：令和4年度

対象となる基準	基準5-3
改善を要する点	○工学院（博士後期課程）において、実入学者数が入学定員を大幅に下回っている
対応状況	<p>・工学院（博士後期課程）：0.685倍（平成30年度～令和4年度）と改善傾向にある。（令和4年度秋入学者数が未定であるため、令和4年度秋入学数を令和3年度秋入学者数と同数と仮定して算出した。）</p> <p>上記の改善を要する点の指摘に対して、教育・国際連携本部アドミッション部門が中心となり、全学で取り組んでいる。</p> <p>○博士後期課程の魅力を伝える案内等の強化</p> <p>・博士後期課程に関する情報のWEBページにおいて、博士後期課程における研究環境と学修環境，教育，経済支援，就職状況等，博士後期課程在学学生や修了生の声，関連リンク，博士後期課程全学説明会の案内や配布資料を常時掲載し，本学の博士後期課程に関する魅力を引き続き発信している。</p> <p>・令和元年度から大学院入試全体の説明を大学院全学説明会（教育・国際連携本部アドミッション部門主催）が担当し，博士後期課程についても説明を行った。学院・コース独自でもより詳細な説明を行う大学院説明会を開催するなどして，きめ細かい情報提供を行う体制となった。</p> <p>○研究推進支援</p> <p>・平成30年度に制度化した企業等の従業員が本学との共同研究を通じて博士後期課程に入学しやすくすることを目的に改善した、学位審査制度の広報を行った。</p> <p>・学修の選択の幅を広げ、学士課程の早い段階から複数の研究室を</p>

周り、博士後期課程進学を目指し、早期に研究を開始する新しい制度として「博士志向教育プログラム (B2D スキーム)」を 2019 年度より全学的に実施している。令和 2 年度登録学生 16 名、令和 3 年度登録学生 15 名の計 31 名が B2D スキームにおいて学修している。また、令和 2 年度登録学生の中で 3 名が早期卒業要件を満たし、3 年間で学士課程を卒業し、大学院修士課程に進学した。このように、次世代の博士後期課程進学希望者の増加に貢献している取組である。

・リーダー養成のためのプラットフォームであるリーダーシップ教育院及び「ものづくり」を社会のサービスに繋げて考える「複素人材」を育成するための物質・情報卓越教育院、超スマート社会 (Society 5.0) の実現を推進する超スマート社会卓越教育院、新しいエネルギー社会を変革・デザインする人材である「マルチスコープ・エネルギー卓越人材」を育成する「エネルギー・情報卓越教育院」において、博士後期課程学生の学びの多様性を拡充した。なお、これらの教育院は本学の大学院課程に所属する学生であれば登録を希望できるものである。

○キャリア支援

・新型コロナ禍においてもオンラインにて Dr's K-meet (全学の博士後期課程学生とポスドク対象) や、K-meet (全課程の学生対象) を開催した。開催実績は以下の通りである。

Dr's K-meet (オンライン開催)

令和 2 年度 参加企業数 77 社 参加登録学生数 337 名 (うち東工大生 240 名)

令和 3 年度 参加企業数 102 社 参加登録学生数 368 名 (うち東工大生 255 名)

K-meet (オンライン開催)

令和 2 年度 参加企業数 393 社 参加登録学生数 1,260 名

令和 3 年度 参加企業数 371 社 参加登録学生数 1,160 名

○経済支援

・博士後期課程の全学生 (国費留学生や社会人など奨学金を受け取れない学生を除く) が対象の給付型奨学金「東京工業大学つばめ博士学生奨学金」を令和元年度から給付開始した。また、2021 年度はつばめ奨学金における 781 名 (併給条件による辞退等を除く。また、全学における人数。) への支援に加えて、東京工業大学高度人材育成博士フェロースhipにおいて 40 名 (全学における人数) に対し

て2,100,000円、さらに2021年10月から次世代研究者挑戦的研究プログラム「殻を破るぞ！越境型理工系博士人材育成」において172名（全学における人数）に対して650,000円～1,800,000円の支援を実施した。

・科学技術創成研究院で実施しているリサーチフェロー制度において、工学院博士後期課程の学生を採用している。これは博士課程学生を研究者として遇し、学生の経済的な安定を図り、帰属意識を高めるとともに、研究能力の養成機能を強化することを目的としており、安心して博士後期課程への進学を選択でき、また研究時間の十分な確保が可能とする取組である。

・令和2年度に文部科学省「科学技術イノベーション創出に向けた大学フェロシップ創設事業」に「情報・AI」分野で申請し採択された。令和3年度より博士後期課程学生40名（全学における人数）へ経済支援と能力開発プログラムの提供を行った。

上記の取組に加え、工学院独自に下記の取組を実施している。

○工学院における取組

・中長期的対策として、博士後期課程進学学生の増大には博士後期課程の魅力アップが不可欠であるとの認識の下、八大学工学系連合会の活動に積極的に参加し、博士後期課程学生への経済支援の充実、キャリアの選択肢増大に向けて他大学と連携して、行政及び産業界への働きかけを行っている。

【根拠資料・データ】

認証評価共通基礎データ

5-3-A-01_博士後期課程を目指す方へ

5-3-E-01_企業との共同研究のもとでの博士学位取得のための実施基準

5-3-F-02_B2D スキーム特別選抜（B2D 特別選抜） _ 2022

5-3-B-02_キャリア関連イベント（2021）

5-3-B-03_東京工業大学 就職ガイドブック 2023

5-3-G-03_リーダーシップ教育院，物質・情報卓越教育院，超スマート社会卓越教育院，エネルギー・情報卓越教育院（非公表）

5-3-C-02_東京工業大学つばめ博士学生奨学金

5-3-I-02_高度人材育成博士フェロシップ_2022spring

5-3-D-02_科学技術創成研究院リサーチフェロー2022

5-3-I-03_越境型理工系博士人材育成プロジェクト

対象となる基準	基準5-3
改善を要する点	○物質理工学院（博士後期課程）において、実入学者数が入学定員を大幅に下回っている。
対応状況	<p>・物質理工学院（博士後期課程）：0.715倍（平成30年度～令和4年度）と改善されている。（令和4年度秋入学者数が未定であるため、令和4年度秋入学数を令和3年度秋入学者数と同数と仮定して算出した。）</p> <p>上記の改善を要する点の指摘に対して、教育・国際連携本部アドミッション部門が中心となり、全学で取り組んでいる。</p> <p>○博士後期課程の魅力を伝える案内等の強化</p> <p>・博士後期課程に関する情報のWEBページにおいて、博士後期課程における研究環境と学修環境、教育、経済支援、就職状況等、博士後期課程在学学生や修了生の声、関連リンク、博士後期課程全学説明会の案内や配布資料を常時掲載し、本学の博士後期課程に関する魅力を引き続き発信している。</p> <p>・令和元年度から大学院入試全体の説明を大学院全学説明会（教育・国際連携本部アドミッション部門主催）が担当し、博士後期課程についても説明を行った。学院・コース独自でもより詳細な説明を行う大学院説明会を開催するなどして、きめ細かい情報提供を行う体制となった。</p> <p>○研究推進支援</p> <p>・平成30年度に制度化した企業等の従業員が本学との共同研究を通じて博士後期課程に入学しやすくすることを目的に改善した、学位審査制度の広報を行った。</p> <p>・学修の選択の幅を広げ、学士課程の早い段階から複数の研究室を周り、博士後期課程進学を目指し、早期に研究を開始する新しい制度として「博士志向教育プログラム（B2Dスキーム）」を2019年度より全学的に実施している。令和2年度登録学生16名、令和3年度登録学生15名の計31名がB2Dスキームにおいて学修している。また、令和2年度登録学生の中で3名が早期卒業要件を満たし、3年間で学士課程を卒業し、大学院修士課程に進学した。このように、次世代の博士後期課程進学希望者の増加に貢献している取組である。</p>

・リーダー養成のためのプラットフォームであるリーダーシップ教育院及び「ものづくり」を社会のサービスに繋げて考える「複素人材」を育成するための物質・情報卓越教育院、超スマート社会（Society 5.0）の実現を推進する超スマート社会卓越教育院、新しいエネルギー社会を変革・デザインする人材である「マルチスコープ・エネルギー卓越人材」を育成する「エネルギー・情報卓越教育院」において、博士後期課程学生の学びの多様性を拡充した。なお、これらの教育院は本学の大学院課程に所属する学生であれば登録を希望できるものである。

○キャリア支援

・新型コロナ禍においてもオンラインにて Dr's K-meet（全学の博士後期課程学生とポスドク対象）や、K-meet（全課程の学生対象）を開催した。開催実績は以下の通りである。

Dr's K-meet（オンライン開催）

令和2年度 参加企業数 77 社 参加登録学生数 337 名（うち東工大生 240 名）

令和3年度 参加企業数 102 社 参加登録学生数 368 名（うち東工大生 255 名）

K-meet（オンライン開催）

令和2年度 参加企業数 393 社 参加登録学生数 1,260 名

令和3年度 参加企業数 371 社 参加登録学生数 1,160 名

○経済支援

・博士後期課程の全学生（国費留学生や社会人など奨学金を受け取れない学生を除く）が対象の給付型奨学金「東京工業大学つばめ博士学生奨学金」を令和元年度から給付開始した。また、2021年度はつばめ奨学金における781名（併給条件による辞退等を除く。また、全学における人数。）への支援に加えて、東京工業大学高度人材育成博士フェロシップにおいて40名（全学における人数）に対して2,100,000円、さらに2021年10月から次世代研究者挑戦的研究プログラム「殻を破るぞ！越境型理工系博士人材育成」において172名（全学における人数）に対して650,000円～1,800,000円の支援を実施した。

・科学技術創成研究院で実施しているリサーチフェロー制度において、物質理工学院博士後期課程の学生を採用している。これは博士課程学生を研究者として遇し、学生の経済的な安定を図り、帰属意識を高めるとともに、研究能力の養成機能を強化することを目的と

	<p>しており、安心して博士後期課程への進学を選択でき、また研究時間の十分な確保が可能とする取組である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度に文部科学省「科学技術イノベーション創出に向けた大学フェロシップ創設事業」に「情報・AI」分野で申請し採択された。令和3年度より博士後期課程学生40名（全学における人数）へ経済支援と能力開発プログラムの提供を行った。 <p>上記の取組に加え、物質理工学院独自に下記の取組を実施している。</p> <p>○物質理工学院における取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・博士後期課程の魅力伝える案内等の強化を実施している。具体的には、学士課程1年生、2年生、3年生、修士1年生のオリエンテーション時及び就職説明会（進路説明会）時に「博士のすゝめ」のパンフレット等も用いて積極的な勧誘をしている。また、学士課程1年生及び2年生にはB2Dも紹介している。 <p>【根拠資料・データ】</p> <p>認証評価共通基礎データ</p> <p>5-3-A-01_博士後期課程を目指す方へ（再掲）</p> <p>5-3-E-01_企業との共同研究のもとでの博士学位取得のための実施基準（再掲）</p> <p>5-3-F-02_B2D スキーム特別選抜（B2D 特別選抜） _ 2022（再掲）</p> <p>5-3-B-02_キャリア関連イベント（2021）（再掲）</p> <p>5-3-B-03_東京工業大学 就職ガイドブック 2023（再掲）</p> <p>5-3-G-03_リーダーシップ教育院，物質・情報卓越教育院，超スマート社会卓越教育院，エネルギー・情報卓越教育院（非公表）（再掲）</p> <p>5-3-C-02_東京工業大学つばめ博士学生奨学金（再掲）</p> <p>5-3-I-02_高度人材育成博士フェロシップ_2022spring（再掲）</p> <p>5-3-D-02_科学技術創成研究院リサーチフェロー2022（再掲）</p> <p>5-3-I-03_越境型理工系博士人材育成プロジェクト（再掲）</p> <p>5-3-1-12_物質理工学院博士勧誘取組み行事</p>
--	--

(注)

1. 機構で受けた大学機関別認証評価において、「改善を要する点」として指摘された事項の対応状況について記入してください。
2. 「改善を要する点」には、評価結果報告書の「II 基準ごとの評価」の【改善を要する点】に記載された内容をそのまま転記してください。

3. 「対応状況」には、「改善を要する点」として指摘された事項に関して改善された状況の具体的な内容及びその改善を実現した取組について、根拠資料・データ等とともに「対応状況」欄に記入してください。
4. 根拠資料・データ等は、その名称を記載のうえ、別添として添付してください。評価結果の追記公表の際に併せて公表しますので、資料番号については、既存資料と重複しないよう、既存資料の資料番号以降の連番としてください。
5. 評価を受けた年度の翌年度を一年度目として起算した場合の三年度目の6月30日までに改善していると判断していない事項については、対応状況欄にその旨のみを記載してください。

対応状況報告書

大学名：東京工業大学

評価実施年度：令和3年度

報告年度：令和6年度

対象となる基準	基準5-3
改善を要する点	○工学院（博士後期課程）において、実入学者数が入学定員を大幅に下回っている
対応状況	<p>・工学院（博士後期課程）：0.705倍（令和2年度～令和6年度）と改善されている。</p> <p>上記の改善を要する点の指摘に対して、教育本部アドミッション部門が中心となり、全学で取り組んでいる。</p> <p>○社会人博士早期修了特別制度の導入</p> <p>・令和6年度より、一定の研究業績を有する社会人の方を対象とした、標準1.5年間で修了および博士後期課程学位の取得を目指す制度を開始した。</p> <p>○博士後期課程の魅力を伝える案内等の強化</p> <p>・博士後期課程に関する情報のWEBページにおいて、博士後期課程における研究環境と学修環境、教育、経済支援、就職状況等、博士後期課程在学学生や修了生の声、関連リンク、博士後期課程全学説明会の案内や配布資料を常時掲載し、本学の博士後期課程に関する魅力を引き続き発信している。</p> <p>・令和元年度から大学院入試全体の説明を大学院全学説明会（教育本部アドミッション部門主催）が担当し、博士後期課程についても説明を行った。学院・コース独自でもより詳細な説明を行う大学院説明会を開催するなどして、きめ細かい情報提供を行う体制となった。</p> <p>○研究推進支援</p>

・平成 30 年度に制度化した企業等の従業員が本学との共同研究を通じて博士後期課程に入学しやすくすることを目的に改善した，学位審査制度の広報を行った。

・学修の選択の幅を広げ，学士課程の早い段階から複数の研究室を周り，博士後期課程進学を目指し，早期に研究を開始する新しい制度として「博士志向教育プログラム (B2D スキーム)」を令和元年度より全学的に実施している。これまで令和 2 年度第 1 期生 17 名，令和 3 年度第 2 期生 15 名，令和 4 年度第 3 期生 16 名，令和 5 年度第 4 期生 8 名の計 56 名を B2D スキーム履修学生として選抜している。また，令和 5 年度までに 15 名が早期卒業要件を満たし，大学院修士課程に進学し本格的な研究を開始した。第 1 期生のうち 2 名が修士課程を短縮修了し，博士後期課程に進学した。このように，次世代の博士後期課程進学希望者の増加に貢献している取組である。

・リーダー養成のためのプラットフォームであるリーダーシップ教育院，情報科学を駆使して「ものづくり」を社会サービスにまで繋げて考える「複素人材」を育成するための物質・情報卓越教育院，超スマート社会 (Society 5.0) の実現を推進する人材を育成する超スマート社会卓越教育院，新しいエネルギー社会を変革・デザインする「マルチスコープ・エネルギー卓越人材」を育成するエネルギー・情報卓越教育院において，博士後期課程学生の学びの多様性を拡充した。なお，これらの教育院は本学の大学院課程に在籍する学生であれば登録を希望できるものである。

○キャリア支援

・新型コロナ禍においても学生と企業の就職情報支援の集いとしてオンラインにて Dr' s K-meet (全学の博士後期課程学生とポスドク対象) や，K-meet (全課程の学生対象)，k-find (次年度の就活学生対象) を開催した。開催実績は以下の通りである。

Dr' s K-meet

(オンライン開催)

令和 2 年度 参加企業数 77 社 参加登録学生数 337 名 (うち東工大生 240 名)

令和 3 年度 参加企業数 102 社 参加登録学生数 368 名 (うち東工大生 255 名)

令和 4 年度 参加企業数 82 社 参加登録学生数 326 名 (うち東工大生 240 名)

(対面開催)

令和5年度 参加企業 72 社 参加登録学生数 354 名（うち東工大生 280 名）

K-meet

（オンライン開催）

令和2年度 参加企業数 393 社 参加登録学生数 1,260 名

令和3年度 参加企業数 371 社 参加登録学生数 1,160 名

令和4年度 参加企業数のべ 317 社 参加登録学生数のべ 4,601 名
（2回開催）

（対面開催）

令和5年度 参加企業数のべ 326 社 参加登録学生数のべ 1,015 名
（3回開催）

k-find

参加企業数 207 社 参加登録学生数 702 名

○経済支援

・博士後期課程の全学生（国費留学生や社会人など奨学金を受け取れない学生を除く）が対象の給付型奨学金「東京工業大学つばめ博士学生奨学金」を令和元年度から給付開始した。

・令和2年度に文部科学省「科学技術イノベーション創出に向けた大学フェロシップ創設事業」に「情報・AI」分野で申請し採択された。

・令和3年度から「高度人材育成博士フェロシップ」及び「殻を破るぞ！越境型理工系博士人材育成」による支援を行い、令和6年度からは、2つの事業の基本的な取組みを継承のうえ一本化し、新たに「Tokyo Tech 総合知と癒しの次世代フロントランナー育成プログラム」として支援を開始した。このプログラムでは「総合知と癒しの次世代フロントランナーとして、現代社会が直面する諸問題を解決し、地球上の全ての構成員の福祉と幸福に貢献する高度専門人材を輩出する」とともに「高度専門力と汎用力を兼ね備えた博士号取得者が多様なキャリアの中から主体的に自らのキャリアを選択する人材を育成する」ことを目指している。

・科学技術創成研究院で実施しているリサーチフェロ制度において、工学院博士後期課程の学生を採用している。これは博士後期課程学生を研究者として遇し、学生の経済的な安定を図り、帰属意識を高めるとともに、研究能力の養成機能を強化することを目的とし

	<p>ており，安心して博士後期課程への進学を選択でき，また研究時間の十分な確保を可能とする取組である。</p> <p>上記の取組に加え，工学院独自に下記の取組を実施している。</p> <p>○工学院における取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中長期的対策として，博士後期課程進学学生の増大には博士後期課程の魅力アップが不可欠であるとの認識の下，八大学工学系連合会の活動に積極的に参加し，博士後期課程学生への経済支援の充実，キャリアの選択肢増大に向けて他大学と連携して，行政及び産業界への働きかけを行っている。 <p>【根拠資料・データ】</p> <p>認証評価共通基礎データ</p> <p>5-3-A-01_博士後期課程を目指す方へ</p> <p>5-3-A-02_「社会人博士早期修了特別制度」入学試験について</p> <p>5-3-E-01_企業との共同研究のもとでの博士学位取得のための実施基準</p> <p>5-3-F-02_B2D スキーム特別選抜 (B2D 特別選抜) _ 2024</p> <p>5-3-B-02_キャリア関連イベント (2023)</p> <p>5-3-B-03_東京工業大学 就職ガイドブック 2023</p> <p>5-3-G-03_リーダーシップ教育院，物質・情報卓越教育院，超スマート社会卓越教育院，エネルギー・情報卓越教育院 (非公表)</p> <p>5-3-C-02_東京工業大学つばめ博士学生奨学金 2024</p> <p>5-3-D-02_科学技術創成研究院リサーチフェロー2024</p> <p>5-3-I-04_Tokyo Tech 総合知と癒しの次世代フロントランナー育成プログラム (Tokyo Tech SPRING)</p> <p>※5-3-I-04 について，5-3-I-02_高度人材育成博士フェローシップ_2022spring と5-3-I-03_越境型理工系博士人材育成プロジェクトが統合したため，1つの資料とした。</p>
--	---

(注)

1. 機構で受けた大学機関別認証評価において、「改善を要する点」として指摘された事項の対応状況について記入してください。
2. 「改善を要する点」には、評価結果報告書の「II 基準ごとの評価」の【改善を要する点】に記載された内容をそのまま転記してください。
3. 「対応状況」には、「改善を要する点」として指摘された事項に関して改善された状況の具体的な内容及びその改善を実現した取組について、根拠資料・データ等とともに「対応状況」欄に記入してください。

4. 根拠資料・データ等は、その名称を記載のうえ、別添として添付してください。評価結果の追記公表の際に併せて公表しますので、資料番号については、既存資料と重複しないよう、既存資料の資料番号以降の連番としてください。
5. 評価を受けた年度の翌年度を一年度目として起算した場合の三年度目の6月30日までに改善していると判断していない事項については、対応状況欄にその旨のみを記載してください。